家族の思い出育む

子育てを楽しむ間取り

2017春
住まいの特集

「柱のきずは　おととしの　五月五日の　背くらべ～♪」（童謡『背くらべ』）。子育てはそのとき大変でも、振り返ればあっという間の愛おしい思い出。柱の傷も壁紙の落書きも、子どもの成長の軌跡と懐かしく思える日がやがて訪れます。

生涯のパートナーと出会い、始まる家族の物語。子どもの誕生や成長を機に、マイホームを建てようと思い始める

INDEX

14、15面　子育てを楽しむ間取りの事例
　　北茨城市の笹島さん邸、稲敷市の根本さん邸
16面　乳幼児期の安全対策グッズ

間取り

2017春
住まいの特集

「柱のきずは おととしの 五月五日の 背くらべ～♪」（童謡『背くらべ』）。子育てはそのとき大変でも、振り返ればあっという間の愛おしい思い出。柱の傷も壁紙の落書きも、子どもの成長の軌跡と懐かしく思える日がやがて訪れます。

生涯のパートナーと出会い、始まる家族の物語。子どもの誕生や成長を機に、マイホームを建てようと思い始めるパパやママは多いはず。住環境は子どもの健やかな成長や後の人生にとっても重要なポイントです。

今回の特集のテーマは「子育てを楽しむ間取り」です。「家事の最中も子どもの遊びや勉強を見守っていたい」「家族がコミュニケーションを取りやすい家が理想」「子どもの人数や成長に合わせ、柔軟に対応できる部屋がいい」…。そんなニーズの参考になる事例を紹介します。また、家づくりを検討している人向けに、耳寄りの情報もお届けします。

INDEX

14、15面　子育てを楽しむ間取りの事例
　　北茨城市の笹島さん邸、稲敷市の根本さん邸
16面　乳幼児期の安全対策グッズ
　　住まいのレポート
　　オープンハウス／福田建設
17面　住まいのレポート
　　2つの平屋住宅／茨城セキスイハイム
　　多様な生活に対応／日立ライフ
18面　お役立ち情報
　　家づくりのモヤモヤ解消
　　知っ得！　助成制度

写真提供：小田倉建築設計事務所・e do design 一級建築士事務所

JOYO BANK

常陽銀行から
新しい住宅ローンが登場！！

自然災害時返済一部免除特約付
住宅ローン

台風（風災）　豪雨　洪水
雪災　落雷

自然災害時返済一部免除特約付住宅ローンのポイント

ポイント1
ご自宅が罹災した場合、罹災の程度に応じて
住宅ローンのご返済※を一部免除（払い戻し）
※毎月の元金および約定利息のご返済（ボーナス返済も含みます）を指し（以下「約定返済」といいます）、一部繰上返済等、随時のご返済は含みません。

対象となる災害
台風（風災）　豪雨　洪水　雪災　落雷

「全壊」（「全焼」・「全流出」を含む）約定返済24回分 免除（払い戻し）
「大規模半壊」約定返済12回分 免除（払い戻し）
「半壊」（「半焼」を含む）約定返済6回分 免除（払い戻し）

ポイント2
2,000万円を20年でお借入の場合、
追加負担額は約500円／月額！
（試算前提）通常の住宅ローン：年2.475%　自然災害時返済一部免除特約付住宅ローン：年2.525%
いずれも「常陽銀行住宅ローン」元利均等返済・毎月返済のみ、繰上返済なしとして試算。

ご融資利率は住宅ローン金利＋年0.05%（平成29年4月現在）

気配感じる程よい距離

間取りの工夫一つで、期間限定の子育て期が親子共々もっと楽しくなるはず。ここでは、北茨城市の笹島達也さん邸、稲敷市の根本尚哉さん邸の実例を紹介します。また、間取りづくりのアイデアを写真で紹介。コラムでは、専門家に「親子でホッとする空間」「子育て住宅のトレンド」をテーマに話しを聞きました。

キッチンから子どもたちの様子を見渡せるリビング

北茨城市　笹島さん邸

リビングを柔軟に活用

東京都内でマンション暮らしをしていた笹島達也さん（37）、英恵さん（37）夫妻。妻の実家の仕事を引き継ぐため、北茨城市への転居を決めたという。古い木造住宅を全面的に建て替え、2015年春、敷地内に親と子それぞれに住まいを新築。互いに目の届く距離を保ちながら、3世代がのびのびと暮らしている。

笹島さん宅は、敷地面積約590平方㍍に統一されたデザインの2棟の住まいが並ぶ。別棟にしたのは、お互いの家族のプライベートを尊重するため。敷地内手前に建つのが笹島さん一家の自宅だ。

夫婦のこだわりは、リビングを家の中心に据え、生活空間を広く取ったこと。キッチンを含めたリビングに約40平方㍍を確保し、そこから和室や学習コーナー、収納用のロフトなどが見渡せる。

学校や幼稚園から帰宅した子どもたちは、英恵さんが料理をするかたわらで、テレビをみたり、勉強や読書をしたり、ロフトに上って遊んだり。「どこにいても家族の気配を感じることができ、それでいて適度にプライベートを保てる。安心してゆったり過ごせます」と英恵さん。

この家を手がけたのは水戸市にある宮本建築アトリエ。「親と子をつなぐ家」と名付けて、程よい距離感を保ちつつ、互いに見守り、安心して暮らせる家を形にした。同社の一級建築士、小林亮介さんは「リビングを有効に活用し、間取りに柔軟性を持たせることで、子どもたちの成長にも対応できる」と話す。

いつでも本が手に取れるように、と願って設けた学習コーナー

子どもたちがやがて巣立つこと、また自分たちが年を取ることなどを考慮して、新築に際し、夫婦はコンパクトな平屋建てにこだわった。2階建てに比べて部屋数が少ない分、家中のスペースを無駄なく活用。将来の子ども部屋としてフリーの部屋を確保し、個室として、客間として、子どもと家族の成長に合わせた使い方ができる。

家族みんなのお気に入りの場所は、リビングの一角にある学習コーナーだ。絵本がつまった本棚に囲まれ、小さな机と椅子が並ぶ約4平方㍍の小さなスペースで、「いつでも好きなときに本が読める環境にしたかった」と達也さん。帰宅後、子どもたちと絵本を広げて、親子の会話を楽しむ場になっているという。

東日本大震災を乗り越えた木造の古い家が2棟の現代的な住宅に生まれ変わった。家族のコミュニケーションを円滑にしながら、ときには「個」の時間も大切にする。そんなゆとりある自然な空間が、子どもたちの成長を見守っている。

○データ
工期＝2014年10月～2015年3月末
土地面積＝68・40坪
建物面積＝37・06坪
設計＝(有)宮本建築アトリエ

小田倉建築設計事務所
＜つながりの窓＞子どもは吹き抜け2階のKidsリビングから1階を見渡し、大人は子どもの気配を感じ、つながりのある空間に。

e do design 一級建築士事務所
＜ワンフロア＞ワンフロアを壁で仕切り、のびのびと遊べるスペースに。

コラム　親子でホッとする空間

スマイル ファミリー ラボラトリー
髙橋世志子さん

たかはし・よしこ／1971年、千葉県生まれ。子どものこころコーチング協会インストラクター、一級建築士、整理収納アドバイザー。つくば市在住。

住みながら楽しめる家に

親も子どもも外で頑張って働いたり勉強したりして、それぞれが家に帰ってきます。「家」は家族がほっとできる場所であると同時に、子どもにとっては生活の基本を学ぶ場。そういう意味で、家は親と子、双方が快適で楽しく、魅力ある空間であってほしいものです。

家は一度建てたら変えられないと思いがちですが、間取りは決まっていても住まい方を変化させることは可能です。仕切りを入れたり、逆に取り払ってフリースペースを設けたり、柔軟に活用できます。家を建てることを第一の目的にするのではなく、「どう暮らしたいのか」をイメージしておくことが大事です。

子どもが小さなうちは、家族が集うリビングを上手に活用してはいかがですか？　大好きなものをすぐに取り出せるよう、リビングに収納場所があるといいですね。親の目の届く場所で子どもは安心して遊んだり、熱中することができ、興味が変われば入れ替えればいいのです。

子ども部屋が必要になったら、自分の部屋だけは好きなようにしていい、というルールもいいでしょう。自分を思い切り表現できる部屋や家庭があれば、子どものびのびと過ごせると思います。家族の成長に合わせて手を加え、「住みながら楽しめる家」を実現できたら素敵ですね。

2017春　住まいの特集

家族みんなの安心空間

稲敷市　根本さん邸

広いLDKに壁や仕切り

長男の幼稚園入園のタイミングで、実家の敷地内に新居を構えた稲敷市の公務員、根本尚哉さん（37）一家。広々としたLDKに壁や仕切りが設けられ、家族が程よくつながる快適な空間が広がった。

根本さん宅は、もともと祖父母が住んでいた平屋を建て替えた。土地の広さも十分にあり、借家の時、階段の上り下りの煩わしさを感じていたことで、「建てるなら平屋がいい」と考えていた。加えて、地域の雰囲気にも合う家を希望していた。いくつもハウスメーカーも見て回り、最終的に自分たちの感性に合った井川建築設計事務所（井川一幸代表・同市古渡）に設計・監理を依頼した。

夫婦共通の趣味は音楽。同事務所代表の井川さんにミュージックビデオを見てもらい、2人が好きな雰囲気だけを伝えた。「共通の友人が多く、わが家が子ども連れで集まれる場所になったらいいなという思いがあった」と根本さん。間取りの希望は特に伝えなかったが、結果、「家事をしていても子どもに目が届く」子育てしやすい仲間の集まる家が完成した。

玄関を入ると、窓から降り注ぐ親子共々、お互いの存在を感じられる安心の空間が広がる

明るい光の下、リビングで悠生君（5）がおもちゃで遊んでいた。その一角には、格子の「ルーバー壁」で空間を分けた大人専用のスペースがある。「個室でもなくオープン過ぎない。気兼ねしなくてちょうどいい」と根本さん。妻のゆりさん（40）は、「壁があることで、パソコンの配線や書類が散らかっていても気にならない」と話す。

キッチンに立ちながら、リビングや庭で悠生君の遊んでいる姿が見える。「一緒に遊びながらでも、料理が作れます。庭で遊んでいる時も窓越しに見守ることができ、大きな安心感につながっています」とゆりさんはほほ笑む。リビング側のキッチンの下は、おもちゃの収納場所となっており、悠生君が一人で片付けることもできるそうだ。

大きな窓越しに部屋の中からでも外で子どもの遊ぶ様子が分かる

子ども部屋は1部屋。現在は、客間兼収納スペースとして利用している。「小学校に上がったら、（目が届くため）リビング学習にしたいと思っています。子ども部屋として使うのは、だいぶ先と考えています」とゆりさん。リビングの壁裏は、ハンモックが下げられ、悠生君の遊び場となっているが、将来的に必要となれば、間仕切りで個室への対応ができるようになっている。

井川さん（42）は、「子育てしやすい間取りは子どもが楽しく、自由に過ごせるのは大前提。プラスアルファ、大人だけの個のスペースを大きな輪（LDK）の中につくることも大切です」と話す。

新居での生活がスタートして約1年。悠生君の成長とともに5年後、10年後の家族の生活スタイルも少しずつ変化していき、その度に家族の思い出が一つずつ刻まれていくだろう。

〇データ
工期＝設計期間：2014年11月～2015年7月
工事期間：2015年8月～2016年1月
敷地面積＝143・68坪
床面積＝36・104坪
設計・監理＝井川建築設計事務所
施工＝内堀建設株式会社

古田建築計画事務所
＜スキップフロア＞リビングから見上げるスキップフロアは子どもたちの遊び場やギャラリーとして利用。

TDS＋高橋建築構造設計室
＜ワンフロア＞広々とした2階のワンフロアでは、雨の日でも遊び回れる。成長に合わせ、間取りも変化できる。

コラム　子育て住宅のトレンド

TDS＋高橋建築構造設計室
設計担当 高橋農さん・高橋里菜さん夫妻

たかはし・みのり／土浦一高、東京理科大学理工学部建築学科卒。建設コンサルタント勤務を経て、2012年同設計室入社。りな／東京理科大学理工学部建築学科卒。ハウスメーカー勤務を経て、2012年同設計室入社。夫・妻・子ども目線の住まいを提案する。2014年「第1回構造デザインコンペティション」審査員賞受賞。

間取りで生まれるゆとり

最近の子育て住宅は、子どもの成長に合わせた柔軟な間取りが一般的です。乳幼児期は、広々とした空間で遊べるように仕切りはせず、成長とともに部屋を仕切るなどの方法です。また、家事をしながらでも子どもに目が行き届くように、学習スペースをリビングに設ける家も増えてきました。

私たちは、子どもをどう育てたいかによってそれぞれのご家族に適した間取りがあると考えています。例えば、親子のコミュニケーションを大事にするご家族には、顔を合わせる機会が増えるよう、リビングを通って子ども部屋に行くような間取りを提案しています。

また、玄関とは別に庭から入れるサブ玄関を設けて三輪車や外遊びグッズが置けるようにしたり、生活スペースと来客スペースをすぐに仕切れる位置に引き戸を設けることで、急な来客にも慌てずに済みます。雑多になりがちな子育て住宅も、間取りの工夫次第で、デザインや生活にゆとりが生まれると思います。

乳幼児期は、転落や誤飲などの事故防止も考える必要があります。私たちは、デザインと安全面を両立させるために、ベビーゲートやネットを取り付けやすい階段や、引き手の目立たない引き出しなどを設計しています。そうすることで、大人も子どもも満足できる住宅になると考えています。

温故知新の住まい体感

福田建設　オープンハウス「星山の家」

お宅拝見

窓を開けると、リビングとデッキが続き広々とした空間が広がる＝笠間市

大工集団が造る家造りを五感で体感してみてはいかが！。今年1月にオープンした福田建設（笠間市）のオープンハウス「星山の家」。玄関を開けると、美しい木目に無垢材の香り、心地よい空間が広がり、長年受け継がれる大工の技の中に最新技術がそこかしこに光っていた。

北関東道・友部ICから車で約5分。「星山の家」は、JR水戸線がすぐ近くに走る線路沿いに建つ。同社では完成住宅の見学会を行っているが、お客さまが生活を始めるまでの期間限定。そのため、「家造りを見学したい」などの要望に対応していくための初の試みとなった。

星山の家は約40坪、4LDKの自然素材でつくる和モダンがテーマの家。骨組み材から仕上げ材まで、スギ材は丸太から切り出した「無垢材」を使用している。昔ながらの木の家にこだわる一方、最新技術への開拓にも熱心。「断熱等級4」をクリアした、遮熱材「リフレティックス」を採用、夏涼しく、冬は暖かい造りとなっているのが大きな特徴だ。

玄関を開けると、ふんわりと木のいい香りが漂ってくる。1階はLDKと水回り、茶室機能を持つ6畳の和室。リビングには床暖専用のナラの木が使用されており、素足でも暖かく、無垢材の温もりがたっぷり感じられる。壁や天井には、自然素材の「幻の漆喰」が塗装され、パントリーとキッチンを仕切る壁は、職人の手塗りだからこそ実現できる柔らかいアーチ型となっている。「この壁材はゴミやホコリを分解してくれ、空気をきれいに保ってくれます。ちょっと壁を汚しても、やすりをかけたり、重ね塗りしたりなど、自分でお手入れできます」（同社）。

玄関を開けると美しい木目、木の香りが漂うLDK

また、1階は2坪40㌢ほどの低めの天井ながら、大きな窓を開けると、リビングとデッキが続き広々とした空間に感じられる。建具や網戸が全て壁内に引き込みできる造りから、より一層、ゆとりの空間が生まれるようだ。

鉄製の手すりが付いた階段を上がると、光を採り込んだ書斎のほかに、8畳の主寝室、2つの子ども部屋、家族分の衣類が収納できるウォークインクローゼットがある。どの部屋も、木の香りで包まれ心地よい空間が広がっていた。

「私たちは伝統的な技術は守りつつ、今の暮らしに合わせた温故知新の住まいを提供しています。（星山の家では）クロスなどとはまた違う心地良さをぜひ体感してほしい」と同社社長の福田定利さんは話す。

◇　◇

見学申し込みはHPかTELで受け付ける。ただし、GW4月29日～5月3日（午前10時～午後3時）は、予約なしで見学可。問い合わせ先は福田建設TEL0296（72）6239へ。

多様なアイテムで対策を

ハイハイしたり、つかまり立ちしたりする乳幼児期は、期間限定ではあるものの家の中で安全対策が必要です。ママやパパたちが手軽に設置できる、安全対策グッズをジョイフル本田ホームセンター事業部ニューポートひたちなか店の土田哲平さん（39）に教えてもらいました。（表示価格は税込み）。

乳幼児期の安全

〈キッチン回り〉はがせるキャビネットストッパー

〈階段〉住宅室内木製階段用　スベラーズ

〈リビング・子ども部屋〜安心クッションコーナー用

■キッチン回り

包丁や食器、調味料など、乳幼児にとっていたずらや誤飲など、いくつもの危険があるキッチン回り。「はがせるキャビネットストッパー」は、食器や小物を入れた場所の扉を開かないようにできる。価格は658円。また、「はがせる多用途ストッパー」はゴム素材で柔軟性に富み、引き出しと引き出しの角で固定ができる。価格は667円（レギュラー）。いずれも両面テープで簡単に貼ることができる。子どもが成長したら取り外しが可能。

■階段

足を滑らせての転落など、何かと心配がある階段。「住宅室内木製階段用　スベラーズ」は、小さな空洞があり、衝撃を和らげるつくりとなっている。建築基準法で階段のこう配が決まっているため、1セットは基本の14段分が入っている。取り付けは両面テープで、木製なら材質は問わない。価格は3540円。バラ売りは1本254円。

また、階段の入口やキッチンへの侵入を防ぐ「Joy-Baby セーフティゲート」は、壁などに傷をつけないつっぱり式が人気。2段式のロックで、ノブを回して扉を上に上げないと、開かない方式となっている。価格は4980円。

■リビングや子ども部屋

リビングや子ども部屋などの壁や家具の角は、子どもが頭をぶつけて、ケガをしやすい場所。長さ90㌢の「安心クッションL字型」は、塩化ビニールやスポンジ製でできており、必要な分だけカットして長さを調整できる。シルバー、イエロー、木目調などカラーバリエーションが豊富。価格は509円〜。また、「安心クッションコーナー用」はテーブルの角の保護用で人気の商品だ。価格は118円〜。いずれも両面テープで貼ることができる。

ジョイフル本田ホームセンター事業部
ニューポートひたちなか店
土田哲平さん（39）

トイレのドアノブも注意

新生活がスタートする春先や赤ちゃん誕生のタイミングで購入するお客さまが増えてきます。おじいちゃん、おばあちゃんが買いにくることも多く、孫が遊びに来た時の安全対策だと考えられます。

また、小さなお子さんがいる家庭で意外に多いのが、「トイレに閉じ込められること」。ドアノブは、経年劣化やいたずらなどで内蔵のバネが壊れることもあります。日頃から注意しておきたい場所の一つです。最近では、バネが壊れても自動開閉できるドアノブ「TKレバー」（3270円〜）も販売されています。